

表1 設置学科

(各学年共通)

学科	学級	コース	人数	備考
園芸技術科 (2学級18名)	A	農業	9名	A組全員農業コース
	B	園芸	9名	B組全員園芸コース
工業技術科 (2学級18名)	C	木工	6名	C,D組それぞれの学級に3コースの生徒が在籍
		窯業	6名	
	D	成型	6名	
生活技術科 (1学級9名)	E	縫製	5名 (4名)	E組の中に2コースの生徒が在籍。
		手芸	4名 (5名)	

IV 千葉県立養護学校流山高等学園における教育課程に関する取組について

1. 本校設立の経緯

本校は平成9年度に開校した千葉県では唯一の高等養護学校である。設置学科は園芸技術科、工業技術科、生活技術科の3学科で合わせて7コースを設けている。

千葉県では平成3年に心身障害児教育検討委員会より「本県養護学校の生徒増や障害の多様化等から高等養護学校の新設を推進し、高等部教育の充実を図る必要がある。」という答申がなされた。これを受けて心身に障害のある生徒の社会自立、職業自立を図る観点から職業学科を設置した高等養護学校の開設へ向けての動きが本格化した。比較的障害の軽い知的障害を持つ生徒を対象に「農業」、「工業」、「家政」を中心とした学科を設け、生徒の社会的・職業的自立を図るため本校が設置された。

2. 本校の概要

1) 学校教育目標

職業的・社会的自立を図るため以下のような教育目標を掲げ教育に当たっている。

「生徒一人一人の障害の状態や能力・特性に応じた3カ年の教育を通し、職業的自立・社会的自立に必要な知識・技能・態度を身に付け、働きながら豊かなゆとりある社会生活を送ることができる人間の育成を目指す。」

2) 設置学科及び学級数

設置学科は表1に示すとおりである。

入学選考を経て各学科の定員を募集する。学科ごとに募集を行い生徒の障害の状態や本人の希望を勘案してコースを決定し、卒業時までコースの移動は行わない。

1学年45名、全校生徒135名である。

3) 進路指導

職業的・社会的自立を目指すことを教育目標に掲げ、校内実習や産業現場等における実習を通し自立のための教育を進めている。現在まで4期の卒業生を出しているがその中で卒業時に就労できなかったのは2名だけである。就職率99%の学校である(平成15年3月現在)。

3. 設立当初の教育課程と指導

1) 専門教育に関する指導

将来の働く生活の中で必要とされる基礎的・基本的な知識、技能、態度の育成を目指し、領域教科の一部または全部を合わせた「職業実習」を学習の中心に据えて指導を展開した。「職業実習」の展開は学科ごとに同一の時間帯を設定し、学年縦割りの集団編制によるコース単位で実施するものとした。

具体的には各学科コースで作り出す「製品・生産物」の確立を目指すことによって生徒の働く意欲や態度を育成しようとした。そのために、その時期の生活のテーマや単元の構成を明らかにし、さまざまな視点から生徒を支援した。

2) 教科別の指導

教科別の指導では社会的・職業的自立に必要な生きた学力の定着を目指した指導を行った。そのため指導要領解説

(当時)の「各教科の具体的指導内容」を視点として日常生活や「職業実習」などの学習場面から見いだした課題や内容を精選して編成しコースでの「職業実習」と相互に補完をはかりながら展開した。

具体的には、教えるべき内容が先にあるのではなく学科、コース、学校生活の中から自然にわき出してくる事柄を精選して学習内容と位置づけていくこととした。

3) 学校行事の展開

年間指導計画の中に学校行事を位置づけ、生徒が一定の期間一つのテーマを持って生活することで期待と見通しを持つことができ作業や学校生活に意欲的に取り組むことができるのではないかと考えた。さまざまな行事をとらえ、単元化して展開し、生徒が主体的、自立的に活動できる状況作りに努めた。

4) 授業時数

職業実習については各学科とも15時間であった。また、教科別の指導については各学科とも週あたり17.5時間である。内訳は保健体育5時間、国語、社会、数学、理科、家庭は各2時間、音楽1.5時間、美術1時間である。その他領域別の指導としてHR1時間、クラブ0.5時間、生徒会0.5時間を設けた。日課表上にはないが、道徳、養護訓練(当時)は教育活動全般を通じて指導するものとした。

4. 教育課程の再検討

平成9年に開校し、学年進行で生徒を募集し平成11年度で初めて3学年そろった展開をし、初めて卒業生を出した。この3年間の実践の中で「職業自立・社会自立を図る教育課程作り」はある程度の成果といくつかの課題を残した。

1) 職業実習

職業実習では生徒が主体的に取り組み、各コースで生産されたものが高品質で購入者から喜ばれるという経験を通して生徒の意欲の向上や働くことの大切さが理解できたように思われる。販売会等を定期的に設定することで単元化でき生徒にとっては活動の目安や見通しを持ちやすい状況たり得たと思われる。また、直接販売を通して面識

のない購入者からの声かけやお褒めの言葉も生徒にとっては貴重な経験となり、意欲の向上につながった。グループダイナミクスの良さが働き、コース全体が一丸となって一つのテーマのもとにまとまって活動する場面が見受けられた。しかし、生徒個々に目を向けてみると情緒的な不安定を示すものや興味関心の変動があるものがあるなかで、ややもすると製品作りに軸足が移り生徒を育むという視点が薄らいでしまう危惧もあった。「いいものをたくさん作ろう」という流れの中で自分の役割分担をこなすことが求められ、その手だてとして「場の設定」「声かけ」「補助具」等の学習環境作りのみで解決を試みたことは、生徒の視点にたった指導の不足面があったように思われる。

「生産すること」と「育むこと」の齟齬に新たな視点での支援の必要が感じられた。

2) 教科別の指導

職業実習を学習の中心に据え、生徒の職業自立、社会自立を目指す教育課程の中で、教科別の指導についても指導内容が先にあるのではなく職業実習の中からわき出たものを取り上げる形で指導を行ってきた。具体的には、国語では現場実習のお礼状や文化祭の案内状の作成、数学では売上金の計算、美術ではいろいろな催し物のポスターや看板作りなどである。このことは学校生活全体を単元化しその時期の生活のテーマを明確にする上では有効であった。また生徒自身にとっても見通しを持ちやすく学校生活上の不安定さを取り除くことができたようである。

しかしながら、社会自立に必要な力をつけ、学校教育目標の「豊かなゆとりある社会生活を送ることができる人間」になるために3年間で身につけなければならないことは何か。

そしてそれを学ぶ場はどこか。生徒個々の様子に合わせ、きめ細かく指導する必要性が出てきた。期待する自立の姿を共通理解し、それに向けて必要な学習内容を整理し、年間指導計画を作成すべきであるという議論も行われた。

5. 新たな教育課程に向けて

平成11年に新しい学習指導要領が告示され、教育の大き

な転換点を迎えた中で、職業的・社会的自立を図る教育課程を考えると、職業実習と教科別の指導は教育課程の両輪と考えられ、それぞれがバランスよく配置され連携をとりながら実施されることによって、生徒個々の良さが引き出され自立のためのよりよい支援につながると考えられた。

ここまでの実践により、教育課程の大きな枠の部分が定着し、これからは生徒の主体性を視点とした授業の内容を充実させることになった。

1) 期待する自立の姿

職業自立・社会自立について議論を行い以下のような共通理解を得た。

「職業自立」とは企業就労をした上で自らの賃金で自分自身の生活費や税金等を払い、可能な限り自分自身の力で生活することとした。また「社会自立」とは社会の一員としてのマナーや規律を守り、自分自身を律し、自分で生活する目的を見だし自分自身で考え主体的に生活する。具体的には働く生活をする上で、余暇を楽しみ周囲の支援を受けながらもやがては一人暮らしができるようになる。このような姿を思い描きながら学校生活の中で学習することを統整理した。

2) 職業実習

よりよく単元化をするために学校行事や生産収穫時期を勘案しながら年間指導計画を作成した。今まではコース全体の活動を整えることにとらわれがちであったが、生徒一人一人に視点を当てるため、生徒一人一人が十分活動できるように支援を充実させる必要があると思われた。実習日誌等を活用し、自分の活動を振り返り生徒自身が客観的に自己を捉え直す機会も必要であり、また、コース独自の評価表を用意して生徒の課題を把握するとともに評価が次のステップにつながり主体的な活動への支援となることも大切である。

職業実習としてきた各コースの実習についても職業訓練的な要素より専門教科を学ぶ喜びを重視して「専門実習」として位置づけることとした。

3) 教科別の指導

期待する自立の姿から卒業時までの到達点の整理と指

導内容の精選をはかった。また、学校行事との関連を考慮して配列を考えた。特に重要だと考えられる内容については、積み重ねを大切にするという観点から3年間で繰り返し取り組むことができるよう計画した。

また、各教科間での連携をはかり、全教科を視野に入れた検討を行い本校にふさわしい指導の実践に心がけるようにした。指導内容については生活を大切にした授業作りを心がけ、身近な生活から題材を選ぶようにし生徒の興味関心を最大限に引き出し、生徒自らが学ぶ姿勢をもてる授業作りを目指すべきだとした。ただ、生活といっても実用主義に陥ることなく生活を豊かにするという視点も大切なことであると考えた。

6. 現在の教育課程

学校週5日制が実施され授業時数の削減の中で内容を厳選し、総合的な学習の時間や情報、外国語等の新しい授業も実施している。現在の本校の日課表の例は表2の通りである。

表2 園芸技術科1年の日課表の例（1校時45分間）

	月	火	水	木	金
	登校				
	S・H・R				
	清掃				
1	特活		H・R		
2	専門	専門	家庭	専門	専門
3					
4					
	昼食				
5	職業・道	情報	理科	数学	国語
6	社会	数学	総合学習	国語	美術
7	保健体育	保健体育	保健体育	音楽	保健体育
	S・H・R				
	部活動		部活動		部活動

3年生は選択教科として体育、音楽、美術、外国語から1教科選択する

1) 専門実習

専門実習では職業自立に向けての生徒の主体的な取り組みを重視している。年間指導計画を細かく見直し、専門実習の目標を設定し、各個人が達成してほしい課題を明らかにするため評価の観点を作成した。専門実習に共通のものと各コースでの具体的な取り組みを踏まえたものを作成した。

評価の観点として①農業、工業、家政に関する職業についての興味関心を深め意欲的に実習するための「興味・関心・意欲・態度」。②働くことの意義を知り各職業に関する基礎的・基本的なことを理解する「知識・理解」③各職業で使用する各種の器具や機械、道具などの操作に必要な「技能・技術」④習得した知識、理解、技能を、他のコースの実習や産業現場等における実習においても実際に活用できる「般化・応用・日常化」の4点とした。(資料1)

2) 教科別の指導

将来の社会自立へ向けて自立の姿を想定し獲得してほしい自立に必要な力、生活に必要な力を教科別の指導の中で指導していくために教科の目標と指導内容を配列した3年間の年間計画を作成した。(資料2)

生徒の様子に合わせ各教科とも具体的な目標を定め、3年間を見通した形で指導計画を作成している。各教科の具体的な目標にそって学習活動に意欲的に取り組み、内容を理解し実生活に活用できるにいたっているのかどうかを基本的な評価の観点としている。(資料3)

3) 個別の指導計画

専門実習や教科別の指導の目標や評価の観点が明らかになったことで個別の指導計画から評価、到達課題の設定が容易になった。

個別の指導計画を作成するときに、保護者の意見を取り入れながら生徒の様子に合わせ、評価の観点の中から個人の目指す目標や到達課題を設定している。また、観点が明らかになっていることで指導者間の共通理解が図られその生徒に対し、あらゆる場面での適切な支援ができるようになり、よりよい指導につながっている。評価会議等で学期末には各個人の目標に従って評価を行い、場合によっては次の学期の目標や到達課題の修正を行うようにしてい

る。また、3学期末には一年間の学習の様子を振り返り次年度の個別の指導計画の目標等を設定している。

4) 目標・評価の検討

各コースや教科部会で年度末に検討会を持ち一年間の指導の内容を振り返るとともにより本校の生徒に即した指導計画となるよう検討を加えている。また、教師側の手立ても評価し、よりよい指導となるよう努力している。

昨年度末には教科別の指導の中で楽しい授業作りのための指導上の工夫がどのように生徒の中で受け取られているか生徒にアンケートを実施した。おおむね50パーセントの生徒が授業を楽しんでいると感じていた。教師の予想を下回る結果であったが、「情報」や「理科」では70パーセント前後の生徒が楽しいと感じているという結果であった。このような客観的なデータを分析することで必要な支援を必要な生徒に行えるようになるのではないかと考えている。

(千葉県立養護学校流山高等学園・澤口 英夫)

資料1

<専門；共通>

	IV	V	VI
評価の観点	○農業，工業，家政に関連する職業についての興味・関心を深め，意欲的に実習する。（興味・関心・意欲・態度） ○働くことの意義を知り，各職業に関する基礎的・基本的な知識を習得する。（知識・理解） ○各職業で使用する各種の器具や機械，道具などの操作に必要な知識と技術を習得する。（技能・技術） ○習得した知識，理解，技能を，他のコースの実習や，産業現場等における実習においても実際に活用する。（般化，応用，日常化）		
	働くことの意義・働く姿勢・態度		
働くことの意義	1 周囲の人々が働いていることに興味を持ち，仕事に参加する。	1 周囲の人々が働きながら生活していることを知り，働くことの喜びを知り，すすんで仕事に参加する。	1 働くことの意義が分かり，積極的に仕事をする。
報告	2 担当の仕事が終わった時に「終わりました」と報告する。	2 担当の仕事が終わった時に「終わりました。次の仕事は何ですか」と確認する。	2 言われなくても，自分の次の仕事を見つけて動く。
意欲	3 積極的に取り組む仕事は複数ある。	3 どんな仕事にも積極的に取り組む。	3 より良い仕事をしようという向上心をもって取り組む。
	道具や機械		
材料名・道具名の理解	4 担当する部所で使用する材料名・道具名を理解する。	4 担当する作業の全工程で使用する材料名・道具名を理解する。	4 コース作業で使用する材料名・道具名を理解する。
安全	5 作業に必要な簡単な道具や工具を安全に使う。	5 作業に必要ないろいろな道具や機械などの仕組みを理解し，安全に正しく扱う。	5 作業内容と使用する道具や機械の仕組みの関係が分かり，道具や機械を安全に正しく使う。
材料，道具の準備	6 材料や道具などの準備をする。	6 その日に必要な作業の材料，道具を本日の予定を確認し，準備する。	6 材料をむだのでないように適切な量を見通し，準備できる。
材料，道具の整理整頓，後片付け	7 材料，道具などの整理整頓をする。	7 材料や製品，収穫物の保管，管理をきちんとする。	7 材料や製品，収穫物のそれぞれの特徴を理解して整理し，決められた場所に保管する。
材料の扱い	8 材料，道具などを大切に扱う。	8 材料，道具を目的に沿った細心の注意を払う。	
	役割・協力		
役割	9 コースの中での係，役割を意識して取り組む。	9 コースの中での係，役割を責任を持って，自分から取り組む。	8 コースの中での係，役割を責任を持って，最後までやりとげる。 9 まわりと自分の仕事の進度を比べ，まわりに協力したり，遅れを自ら取り戻す努力をする。
協力	10 仲間と協力して仕事をする。	10 仲間と協力して仕事をする。	10 仲間と協力して効率よく仕事をする。 11 仲間が困っているときに自分から援助する。
	製品・収穫物の取り扱い		
製品・収穫物の取り扱い	11 製品を丁寧に扱う。	11 製品を丁寧に扱うための事前の準備作業を行う。	
製品・収穫物の良否	12 製品や収穫物の良否が分かる。	12 製品や収穫物の良否が分かり，不良品を出さないように注意する。	12 製品の良否を点検する方法が分かり，不良品を出さない方法を工夫する。
	販売・流通		
接客	13 お客様への呼びかけをする。	13 丁寧な言葉遣いで接客する。	13 製品の説明を加えながら販売する。 14 正しい金銭のやりとりをする。
製品・収穫物の袋詰め等	14 製品・収穫物の袋詰め作業を見本を見て，見本通りに袋詰めをする。	14 製品・収穫物の袋詰め作業を見本なしでも正確に袋詰めをする。	
製品名・収穫物名	15 製品名・収穫物名が分かる。	15 製品名・収穫物名，用途等まで分かる。	
製品・収穫物の値段	16 製品・収穫物の値段が分かる。	16 製品・収穫物の値段が分かり，金銭のやりとりをする。	
販売活動計画	17 販売活動計画で自分の担当する内容が分かる。	17 販売活動の計画立案で意見を述べる。	15 販売活動計画の立案にあたって，全体像を把握しながら計画立案に携わる。

<専門；農業（農業）>

	IV	V	VI	
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業についての興味・関心を高め、意欲的に実習に参加する。（関心・意欲・態度） ○ 農業に関する基礎的・基本的な知識を習得し、実習に取り組む。（知識・理解） ○ 農機具や簡単な機械などの操作に必要な知識と技術を習得し、安全に実習に取り組む。（技能・技術） ○ 作物、野菜の栽培、食品加工に関する分野に必要な知識と技術を習得し、実際に活用する。（知識・技能・応用） 			
農業実習	畝づくり	1 張りが弱いが、畝ひもを間隔ロープの印に合わせて張る。	1 畝ひもを間隔ロープの印に合わせて確実に張る。	1 相手を意識しながら、畝ひもを確実に張る。
		2 鍬で曲がりながらも溝をきる。	2 畝ひもに沿って、鍬で溝をきる。	2 畝ひもに沿って、鍬で溝の深さを均一にきる。
		3 鍬でのマルチ張りの手順がわかる。	3 マルチの穴の位置を意識しながら、マルチをピンと張る。	3 4人で協力しながら、初めから最後までマルチを張る。
	トンネル作り	4 間隔ロープの印に合わせて、トンネル支柱を差し込む。		4 2人で協力しながら、間隔ロープ張りから最後まで確実にできる。
		5 ベグを置く位置がわかり、順番に置く。	4 マイカー線が緩まないように2人で協力しながら張る。	5 初めから最後まで、マイカー線張りを続けて行く。
	播種	6 1つの野菜につき、繰り返し指導する中で穴の深さ、覆土の感覚をつかむ。	5 各野菜ごとに説明することで、穴の深さ、覆土の量が分かる。	6 種の大きさに応じて、穴の深さ、覆土の量を調整する。
	収穫	7 繰り返し取り組む中で、収穫のポイントが分かる。	6 ポイントをおさえて丁寧に収穫する。	7 ポイントをおさえて丁寧に素早く収穫する。
	調整	8 繰り返し取り組む中で、調整のポイントが分かる。	7 ポイントをおさえて丁寧に調整することができる。	8 ポイントをおさえて丁寧に素早く調整する。
	計量・袋詰め	9 秤の目盛りに印を手がかりに計量する。	8 一度、目盛りの位置を確認すれば間違わずに計量する。	9 重さの単位を理解していて、g、kgと単位が変わっても確実に計量する。
			9 端や向きなどのポイントを押さえて袋詰めをする。	10 ポイントを押さえて、手早くきれいに袋詰めをする。
食品加工：漬け物・みそ作り	10 漬け物作り、みそ作りのおおよその作り方が分かる。	10 漬け物作り、みそ作りの手順が分かり作る。	11 漬け物作り、みそ作りの手順や分量を確認しながら作る。	

<専門；農業（園芸）>

	IV	V	VI
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業についての興味・関心を高め、意欲的に実習に参加する。（関心・意欲・態度） ○ 農業に関する基礎的・基本的な知識を習得し、実習に取り組む。（知識・理解） ○ 農機具や簡単な機械などの操作に必要な知識と技術を習得し、安全に実習に取り組む。（技能・技術） ○ 草花の栽培、草花の管理に関する分野に必要な知識と技能を習得し、実際に活用する。（知識・技能・応用） 		
草花栽培：土作り	1 土ふるい、牛ふん等の配合、混ぜるといった一連の流れを理解し、作業に取り組む。	1 赤土(4)、牛ふん(1.5)、ピートモス(1)の準備、用途別のスコップの使い分けをする。	1 土作りの準備から片づけまで、細部に配慮して取り組む。
草花栽培：ポット土入れ	2 ポットへすりきり一杯の土を入れる作業を続ける。	2 ポットへの土入れを時間と目標数を意識しながら手際よく取り組む。	
草花栽培：パンジーの移植	3 パンジーの移植の仕方（中央への移植、苗の扱い等）が分かり移植する。	3 茎や根を傷つけないように、細部まで意識し、丁寧な移植する。	2 手際よい移植をする。
草花栽培：施肥	4 決められた場所に施肥をする。	4 苗の成長、土の乾き具合考えた施肥をする。	3 正確な計量による液肥作りから、雑草の処理までを含めた細部に渡る施肥が確実である。
草花栽培：播種	5 決められた種を指示にしたがって播く。	5 手際よく種まきをする。	
椎茸栽培：運搬	6 ホダ木の運搬、バケツリレー方式での運搬をする。	6 傷つけないように丁寧にトラックへの積み込み作業をする。	4 ホダ木が崩れないように太さを揃え井桁伏せをする。
	7 一輪車や二輪車を使ってホダ木を運ぶ。		
椎茸栽培：浸水、散水	8 指示に従って散水する。	8 ホダ木の乾き具合を見ながら散水する。	5 ホダ木の浸水計画、自主的な散水をする。
椎茸栽培：収穫		9 かさの開き具合や大きさを判断し収穫する。	
椎茸栽培：計量、袋詰め	9 シイタケの大きさ、出来具合を見て袋詰めをする。	10 おおよその検討で110g～120gのシイタケの袋詰めをする。	6 シイタケの大きさ等を配慮しながら、計量も正確に行う。
除草	10 鎌を使って所定の場所の除草をする。	11 手際よく除草する。	
納品準備	11 苗の背丈、花の向きをそろえてケースに準備する。	12 効率的な（同時に2個のポットを持つ等）準備をする。	7 草花の名前、株数等のメモをとり確認しながら納品準備する。

資料2
平成14年度教科別の指導年間指導計画（抜粋）

教科	目 標	学年	時数	1学期				2学期				3学期			
				4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
国語	生活に必要な国語についての理解を深め適切に活用できるようにする。 ①日常生活に必要な読み書きができるようにする。(小学校中学年程度の教育漢字の読み書き) ②話の内容の大切なところを落とさずに聞き取ることができるようにする。 ③目的や場に応じて適切な話し方ができ、自分の意志を相手に伝えることができるようにする。 ④相手や目的に応じて手紙や文章を書くことができるようにする。	1年	週2	ルビ-漢字練習	図書室利用 校内電話 電話のマナー	住所録 俳句作り 絵手紙	暑中見舞い 読書	敬語 連絡伝達 公共の図書館	ローマ字 外来語 俳句	案内状 接客練習	新聞 俳句 年賀状	書き初め 百人一首	日誌 作文	俳句 漢字	
		2年	週2	ルビ-漢字練習	住所録 敬語・面接 電話のマナー	硬筆	暑中見舞い 市立図書館 俳句	敬語 面接 連絡伝達	ローマ字 英会話 新聞	案内状 接客練習	毛筆 俳句 年賀状	書き初め 旅行案内	作文 新聞	作文 漢字	
		3年	週2	ルビ-漢字練習	住所録 敬語・面接 電話 メモの取り方	硬筆	暑中見舞い 図書館 俳句	旅行案内書 作文 新聞 敬語・面接	ローマ字 英会話 説明書	案内状 接客練習	毛筆 俳句 身近な文章 年賀状	書き初め	漢字 卒業文集		
数学	生活に必要な数量や図形についての理解を深め、適切に活用できるようにする。 ①5桁までの加減ができる(電卓も可)。おおよその計算ができる。 ②お金の計算をして、買い物ができる。 ③時計の計算をして、時計を見て行動ができる。 ④長さ、かさ、重さを理解できる。 ⑤簡単な表やグラフが読みとれる。 ⑥簡単な図形が分類できる。	1年	週2	初エッセイ 一日の生活	一日の生活	小遣い 帳の付け方	夏休みの小遣い帳	買い物 消費税	販売練習	長さ、かさ、重さ	冬休みの小遣い帳	表・グラフ	まとめ		
		2年	週2	自分の身長・体重	時刻表、交通費	製品の値段 生活時間	金銭の計算 消費税計算	小遣いの使い方、記入					金銭の計算 売り上げまとめ	まとめ	
		3年	週2	初エッセイ	通勤時間計算 交通費計算	販売会 金銭計算 消費税	小遣いの使い方記入	長さ、かさ、重さ	税金、給料、生活費				金銭の計算 売り上げのまとめ	まとめ	
理科	自然の事物・現象に興味関心を持ち、自ら生活の中の不思議について探究するようになり、自然や生命を大切にすることを育てる。 ①「人体」：健康管理、病気、ケガへの対応(服薬・手当・通院)ができる。 ②「生物」：生命を大切にすることを育てる。 ③「事物や機械」：薬品、身近な機械を安全に配慮しながら取り扱う。 ④「自然」：自然と生活の関連を理解できるようにする。	1年	週1	身近な自然 ゴミの処理	身体のおくみと生活習慣病	地球と宇宙	地球と宇宙	温度と湿度	身近な自然	物体の様子	物体の様子 重さ、面積、体積、長さ、時間・速さ、導体と絶縁体、液体・固体・気体				
		2年	週1	学校周辺の自然	身近な動物	薬品等の取り扱い	地球の環境		気象の変化			気象の変化			
		3年	週1	電気機器と身近な機械			食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	災害から身を守る		災害から身を守る					
社会	①必要に応じて地図や路線図等を活用できるようにする。 ②公共機関や金融機関の利用の仕方を知る。 ③卒業後の社会生活に必要なきまりや制度の理解を深める。 ④いろいろな地域(林間、スキー、修学旅行)の自然や生活の様子について関心をもち、理解を深める。	1年	週1	学校の周辺 自分の家・友達の家	働く生活	栃木県の自然・地理・産業	流通	いろいろな仕事 社会人のマナー	金融機関の利用	きまりと制度	公共機関 利用 年末年始の行事	ニュース	ニュースの活用	公共機関の利用	
		2年	週1	自分の街	路線図や時刻表の利用	社会人のマナー		金融機関の利用	現場実習に向けて	きまりと制度		県の自然・地理・産業		ニュースの活用	
		3年	週1	地図帳の見方	路線図や時刻表の利用	流通	北海道の自然・地理・産業	旅行でのマナー	公共機関の仕様の理解	きまりと制度	冠婚葬祭について	経済生活	ニュースの活用		
職業	勤労に対する意欲を高め、社会の一員として一人ひとりが持てる力を発揮し、豊かで充実した生活を送ることができる。(卒業時に就職することを旨とする)	1年	週1	流山学園について	自分、障害人とのつきあい	校内実習事前・事後	仕事・手伝い 生活カ ジュール 健康管理	仕事 職場見学	校内実習事前 事後	金銭管理	人とのつきあい	相談したいとき	生活の場	ぼくの夢、私の夢	
		2年	週1	自分について	進路先 進路先を決めるには	生活を整える 現場実習事前	現場実習 休日・余暇の過ごし方	私たちの権利 進路を決めるまで 働く準備	現場実習事前 事後	給料と生活貯金	人とのつき合い 障害を持つ人の権利	手帳をもらう 利用できる福祉制度	生活の場	自分の人生を歩こう	
		3年	週1	自分について	求人登録票の記入 社会人の生活	マナー 現場実習事前 事後 履歴書	住まい 生活の場 健康管理	相談できる所 法律	現場実習事前 事後	経済生活	困ったときには	援助者のつき合い 友達 きまり 制度	生活の場	自分の人生	
家庭	社会自立に向け、日常生活を営む上で必要な基本的な力を身につけられるようにする。 ①食：卒業時までには、一人で簡単な食事を作って食べることができる。 ②衣：自分で身なりを整える。(簡単な日常着の洗濯、アイロンかけ、衣服の簡単な補修) ③住：健康で気持ちの良い生活ができるようになる。(ゴミの分別、整理整頓、清掃、掃除機・洗濯機の使い方)	1年	調理週1,7	ごはん、みそ汁、卵料理	カレーライス		加工食品を使った献立	カレー				お弁当作り			
		1年	雑用週1	調理室の使用	洗濯の基本	手縫いの基本	生活習慣	衣服の補修・ボタン付け	住役割 大掃除		バランスのとれた献立作り				
		2年	調理週1,7	おにぎり、みそ汁、卵料理	夏野菜を使った献立		簡単な昼食作り	簡単調理	魚料理						
		2年	雑用週1	制服の管理	手縫い 茶菓	食品保存	ゴミ分別	手縫い ボタン付け	栄養のバランス	快適住 大掃除		小物作り			
		3年	調理週1,7	加工食品、半加工食品	バランスのとれた食事作り		一人一鍋	冬調理			家庭でも作れる調理				
3年	雑用週1	茶葉マナー	身だしなみ	食品保存		予算に応じた買い物 家計簿	食マナー 大掃除			生活習慣の見直し 衣服の簡単な補修					

資料3

<国語>

IV				V				VI			
聞 く ・ 話 す				聞 く ・ 話 す				聞 く ・ 話 す			
関	知	技	一般	関	知	技	一般	関	知	技	一般
1			教師などの説明や友だちの話などを聞いて、おおよその内容が分かる。	1			教師などの説明や友だちの話などを聞いて要点をつかむ。	1			教師などの説明や友だちの話などを聞いて大切な所をメモする。
2			物語、劇、映画、テレビなどを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。	2			物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、感想を話す。	2			物語や小説などを読んだり、テレビや映画などを見たりして楽しみ、感想を話したり、書いたりする。
3			簡単な放送などの要点が分かる。	3			放送や録音の内容（の要点）が分かる。	3			話し手の意図や気持ちを考えながら、内容や指示・説明を適切に聞き取る。
4			指示や説明を聞きとる。	4			必要な場合はメモをとり、指示や説明を正しく聞き取る。	4			テレビ、ラジオなどを聞き、必要な情報を得る。
5			事柄の順序をたどって、経験したことを話す。	5			経験したことを相手に分かるように、要点を落とさずに話す。	5			経験したことを、擬声語や擬態語も交えて的確な表現で話す。
6			人に尋ねられたときにはまきり応答する。	6			場に応じた適切なあいさつや応答をする。	6			相手や場にあわせて適切な挨拶や応答をする。
7			自分の意見をみんなに分かるように話す。	7			人の意見を聞き取り自分の意見を話す。	7			人の意見に関連させて、自分の意見をはっきりと述べる。
8			用件を落とさずに話をする。	8			要件を落とさずに要領よく話をする。	8			要件を筋道をたて正確に話す。
9			必要なときにはいい言葉を使ったり、共通語で話したりする。	9			敬語を適切に使う。	9			相手に応じて、敬語や言葉づかいを使い分け
10			校内電話や公衆電話の応答に慣れる。	10			電話で応答し、必要に応じて伝言を受ける。	10			尊敬語、謙譲語を適切に使って話す。
				11			電話の種類と使い方が分かる。	11			電話の取り次ぎや適切な応答をする。
				読 む							
11			やさしい読み物や詩などを読んで楽しむ。	12			いろいろな読み物を読んで楽しむ。	12			小説やエッセイなどを好きな読み物を読んで楽しむ。
12			国語辞典に関心をもつ。	13			辞典などを利用する。	13			国語辞典、百科事典などを活用して必要なことを調べる。
13			目につかれる標識、看板、立て札、掲示などの意味が分かる。	14			日常生活に必要な標識、看板、広告、立て札、掲示などを正しく読み取る。	14			標識、看板、立て札、掲示、回覧板などを読んで適切に行動する。
14			図書室（館）の利用の仕方が分かる。	15			図書室（館）を利用する。	15			図書室（館）を効果的に利用できる。
15			日常生活に必要な伝票、領収書、説明書などが分かる。	16			日常生活に必要な伝票、領収書、諸届け、申込書などの記入の仕方が分かる。	16			日常生活に必要な伝票、領収書、通知書などの意味が分かる。
16			ローマ字に関心をもつ。	17			日常生活でよく使われる外来語が分かる。	17			外来語に関心を持ち、自分でも使おうとする。
				18			日常生活で使われる器具や医薬品などの簡単な説明書が分かる。				
17			日常生活でよく目につかれる外来語の標識に関心を持つ。	19			日常生活でよく目につかれる外来語の標識が分かる。	18			外来語や片仮名の標識を読み、適切に行動する。
				20			外来語に関心を持つ。				
18			新聞や雑誌などを見たり、読んだりする。	21			新聞や雑誌などを見たり、読んだりする。	19			新聞や雑誌を読み、必要な情報を得る。
19			詩や短歌、俳句などに親しむ。	22			詩や短歌、俳句などの内容や情景を想像する。	20			詩や短歌、俳句などを作ったり、読み味わったりして楽しむ。

